

教育研究業績書

2025年10月20日

所属：看護学科

資格：准教授

氏名：北尾 美香

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学	口唇裂・口蓋裂、発達障害、外来看護
学位	最終学歴
博士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 博士前期課程 武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 大学院修士課程「生涯発達看護学総論」での対話型授業の実施	2023年4月～現在	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程1年次講義科目「生涯発達看護学総論」において、子どもの病気の理解と子どもへの病気説明の講義の後、各自の看護実践への応用可能性について、修士課程の大学院生と対話をしながら深めていく授業を実施した。
2. 大学院修士課程「看護統計法」での統計ソフトSPSSを使用した演習型授業の実施	2022年4月～現在	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程1年次講義科目「看護統計法」において、統計ソフトSPSSを大学院生の各自のパソコンにインストールし、教員が作成した模擬アンケートデータを大学院生へ提供し、データの入力方法から分析の練習を演習形式で実施した。
3. 学部生への卒業研究の指導	2021年4月～現在	毎年3～4名の学部生を担当し、卒業研究の指導を行っている。指導に当たっては、小児看護学領域における学生の研究疑問・興味・関心を丁寧に聞き取り、研究テーマの設定や研究方法について学生と共に考えるようしている。また、データの収集、クリティック、論文作成、卒業論文の発表等、全ての過程において、学生との対話を丁寧に行い、学生の思考の整理ができるように指導や助言を行っている。
4. 大学院生への研究指導	2021年4月～現在	2021年度より修士課程、2023年度より博士課程の副指導を行っている。指導の際は、研究テーマの検討、研究計画、分析、論文作成、学会発表等、全ての過程において、学生との対話を丁寧に行い、学生の思考の整理ができるように指導や助言を行っている。
5. Google Meetを使用した学生と教員の双方向型の実習	2020年5月～2022年3月	武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ禍の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。 1グループにつき、助教2名体制で実習を行い、事例の看護展開においては、教員・医療スタッフ役と、患者・家族役に役割分担をした。実習開始までに、履修登録をしている学生をグループの指導用、個人指導用、病室用のGoogle Meetに招待し、ナースステーションと病室を想定した遠隔実習を行った。学生それぞれに事例を割り当て、学生は看護計画を立案し、教員役の教員から指導を受け、患者役の教員を相手に看護援助を実施した。本取り組みを行った学生の実習の学びは、臨地実習を行った学生の実習の学びと同じ内容が挙げられており、遠隔においても質を担保した実習を行うことができた。
6. 小児病棟を再現した部屋でのシミュレーションの実施	2020年5月～2022年3月	武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ禍の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。学生が小児病棟の病室を想起しやすいように、看護科学館母性・小児実習室内に模擬病室を再現した。学生がGoogle Meet上で患者の療養環境及び行動・表情がよく見えるよう、患者・家族役の教員はカメラ位置を調整した。本取り組

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
7. 視聴覚教材を用いた学習	2020年5月～2022年3月	みで学生は遠隔でも患者の言動および療養環境を観察することができ、患者の状態に合わせた個別性の高い看護計画の立案、実施、評価をすることができた。武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いた遠隔実習を行うこととした。プレパレーションの学習については、インターネット上で公開されている動画等を画面共有機能を使用して見せ、内容や方法についての復習を行った。フィジカルアセスメントに関しては、DVD教材を画面共有機能を使用して見せ、復習を行った。看護過程の事例に関しては、紙ベースでの事例の配信前に、DVD教材を見せ、学生が子どもの発達段階を理解しやすいように工夫した。
8. Google Formを用いた双方向性の授業展開	2020年4月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。本授業内容を動画配信した際に、Google Form（アンケート作成アプリケーション）を用いて2、3問の小テストおよび授業の学びや感想について毎回記載を求めた。Google Formを用いることにより、授業動画を配信するだけの能動的な授業ではなく、学生も授業内容についての意見を出せる機会を設けることができた。学生からの質問に対して、Google Classroomの限定コメントを通して返答することで、双方向の授業展開を行うことができた。
9. Google Clasroom、Meetを活用した国家試験対策の個別指導	2020年4月～現在	武庫川女子大学看護学部3年生を対象にGoogle Clasroom、Meetを活用し、遠隔での個別指導を行っている。具体的にはGoogle Clasroom上に課題を提出し、学生の勉強習慣の定着を図っている。また、Meetを利用することで遠隔で、国家試験対策に関する学生からの相談に乗れるようしている。
10. Google Classroomを用いた連絡や課題提出	2020年4月～2023年3月	武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Classroomを開設し、その中で連絡事項や患者事例、実習記録（Google ドキュメント）を配信し、学生は期日までに記録を提出することとした。学生はパソコン、スマホ、タブレットなど様々なデバイスを使用していたため、実習記録の提出は配信したドキュメントと、配布済みの紙ベースの記録の画像のどちらでも可能とし、学生が課題を取り組みやすいように留意した。Google Classroomを使用することで、遠隔でもすぐに教員が実習記録を見ることができ、リアルタイムな看護過程の指導ができた。
11. Google Classroomを用いた授業動画の配信	2020年4月～2023年1月	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「看護研究方法」（専門科目、3年次配当、必修2単位）、共通科目「女性と子どものヘルスケア」（共通科目、2単位）で実施した。コロナ渦の影響により対面授業が不可能になったことから、授業動画を配信することとした。履修登録をしている学生をGoogle Classroomに招待し、その中で授業に関する動画や資料を配信した。授業動画は、パワーポイントの録画機能やXsplitを用いて作成した。Google Classroomは、パソコンやスマホ、タブレットなどインターネットに接続可能なデバイスであれば視聴可能であり、各学生が自宅にいながら授業を見るができるよう配慮を行った。本取組みにより、外出自粛要請期間でも質を担保した授業の提供を

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
12. Google Clasroomを利用した国家試験過去問題配信の実施	2018年10月～2019年03月	行うことができた。 武庫川女子大学看護学部看護学科では、国家試験対策担当の教員によって各学年用のGoogle Clasroomを作成し、毎月1日と15日に10～15問程度の国家試験過去問題を配信した。正答率70%以上の必修問題を一年を通じて配信することで、学生の勉強習慣の定着と、学力向上を狙いとした。
13. 小児看護学実習でのループリックを使用した自己評価の実施	2017年10月～現在	武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」で、小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開をする際に、自己評価ループリックを使用している。看護学実習を行うにあたり、ループリックで望ましい学習習熟度を具体的に示すことで、具体的にどのような関連図、問題明確化、看護計画とする必要があるのか、看護学生にふさわしい態度とはどのようなものかを意識させながら、臨地実習を行うことができている。
14. 看護計画の展開（PBL）でのループリックを使用した他者評価の実施	2017年4月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「チャイルド・デベロップメント・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施している。事例を用いた小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開で、講義の最終回に関連図、問題明確化、看護計画の立案を他のグループが匿名で評価を行う。評価をする際には、ループリック形式の他者評価票を使用している。他のグループの学生が理解できる内容とするために、具体的にどのような関連図、問題明確化、看護計画とする必要があるのかを意識させながらグループワークを実施できている。
15. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う小児のバイタルサイン測定の実施	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施している。小児のバイタルサイン測定の演習では、測定時の学生の表情や声かけが客観的に理解できるように、ベッド上にスマートフォンのスタンドを置いて動画を撮影する。子どもがどのような視点でバイタルサインを測定されているのか、学生はどのような表情で声かけをしているのかが分かり、学生からは「測定することで精一杯で声かけが十分にできていなかった」「顔がこわばっていたので、もっと笑顔が必要だった」という意見があった。
16. 患児の事例に合わせたおもちゃの制作	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施している。遊びと読み聞かせの演習では、複数の患児の事例から1つを選択し、患児に合わせたおもちゃを制作する。おもちゃは空き容器、ペットボトル、牛乳パックなどを使用して低成本で作成できることを条件としている。学生は、授業の時間内に工作を行い、完成したおもちゃの写真をレポートに添付して、使用方法や作成の意図などを書き出した。
17. 事前課題としてのインターネット上の動画の視聴	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施している。小児の点滴固定の演習では、教員が制作した点滴固定の動画をweb上にアップロードし、学生は事前課題として動画を視聴して手順を図にまとめ、演習当日に実施する方法を取り入れている。バイタルサインの演習では、演習のデモ動画を事前にweb上にアップロードし、学生が演習に取り組むまでに何度も動画を確認できるようにしている。学生からは「事前に動画を視聴しておくことで具体的な手順がイメージできた」という意見が多数みられた。
18. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う絵本の読み聞かせの実施	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施してい

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
19. 看護計画の展開（PBL）でのプレゼンテーションの実施	2016年9月～現在	<p>る。遊びと読み聞かせの演習では、前回の講義で習った絵本の読み聞かせの方法を実践するために学生間で絵本の読み聞かせを行う。ただ読み聞かせをするだけでは、自身がどのような声色、スピード、表情で読んでいるのかが理解できないため、学生はスマートフォンで動画を撮影し、自身で動画をみながら振り返り感想を書いた。学生からは「思っていたよりも早口で読んでいたので、気をつけたい」「読むことに集中していて表情が硬かった」などの意見がみられた。</p> <p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施している。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開では、グループワークでまとめた関連図、問題明確化、看護計画の立案について、学生がプレゼンテーションを行う。発表するグループは当日のくじで決定し、プレゼンテーション10分、質疑応答5分として、発表が当たらなかつたグループも司会やタイムキーパー、質問をするようにしている。</p>
20. ジグソー法を取り入れた看護過程の展開（PBL）の実施	2016年9月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施している。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開の際にジグソー法を取り入れている。4名1グループの編成となり、学生は4つのアセスメントをそれぞれ担当する。担当したアセスメント同士の学生で集まり、エキスパートグループでグループワークをしてアセスメントをまとめる。もとのジグソーグループに戻って自分が担当したアセスメントについて他のメンバーへプレゼンテーションをする。4つのアセスメントを統合させて相談しながらグループワークを進めて、関連図の作成、問題明確化、看護計画の立案をする。4名1グループと少人数制にすることで全員が参加でき、担当があることで学生各自が責任を持ってグループワークを実施している。</p>
21. 離乳食の試食	2016年9月～2017年12月	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。離乳食、調乳の演習では、発達段階ごとの離乳食の特徴やその違いについて理解を深めるために、学生が実際に離乳食を試食した。演習後のレポートでは、講義だけでは理解し得ない味や食感を体験できたことで、離乳食についての关心や理解が深まったという記述が多く見られた。
22. 自己評価ループリックを使用した看護計画の展開（PBL）の実施	2016年4月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施している。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開をする際に自己評価ループリックを使用している。グループワークの各回の振り返りとしての自己評価をする際に、ループリックで望ましい学習習熟度を具体的に示した。このことで、学生は毎回の授業でどのように取り組めばより高評価になるかが具体的に理解でき、教員との共通理解を深めることができている。
23. ミニツツペーパーを用いた双方向の授業	2016年4月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学I」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学II」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施している。毎回の講義の最後に、学生はミニツツペーパーを書き出した。ミニツツペーパーには、今

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
24. 視聴覚教材を用いた教育実践	2016年4月～現在	日の講義で学んだこと、感想、質問を書いてもらつた。提出されたミニッツペーパーの内容を読むことで、学生は講義のどのような内容に興味をもったのか、また難しいと感じたポイントはどこなのかがよく理解できた。また、質問が書かれた際には次回の講義で回答した。このようにすることで、教員から的一方向的な授業ではなく、学生からの反応にフィードバックできる双方向の授業ができる。
25. 自己学習票の持込みを可とした小テストの実施	2016年4月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「家族看護学」（専門科目、3年次配当、必修1単位）において実施している。講義では小児の健康障害とその看護について理解することを目的としている。そこで、小児の疾患の症状やそれに対する看護援助の方法について、写真や動画を用いて学生が視覚から理解しやすいように工夫をして講義を行っている。その結果、「講義は写真や動画を見る機会が多く、視覚的に理解がしやすかった」という意見が多数みられた。
26. 講義の配布資料の工夫	2016年4月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。講義の最後に毎回小テストを実施している。問題は前回の講義内容より、看護師国家試験の過去問を2、3問出題した。小テストは、前回の講義後に配布された自己学習票（A5サイズで左半分の10cm×10cmの枠内のみ書き込み可）の持ち込みを可とした。自己学習票の持ち込みをするには講義が終わってから書き込まなくてはならないため、学生に復習の習慣をつけることができた。小テスト後に、教員が問題の解説を行い、学生が自己採点をした。「講義で聴く」「講義後にテキストを見直す」「自己学習票にまとめる」「小テスト中にまとめた内容を読む」「小テストの解説を聴く」「定期試験前に復習する」と最低6回は反復して学習ができた。これまでに前回の講義を欠席した学生を除いて、自己学習票を白紙の状態で提出した学生はおらず、講義内容の復習につながっている。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 久米田看護専門学校2年生への授業	2016年10月～2016年12月	久米田看護専門学校2年生対象の小児看護学援助論II（2年次、2単位、必修科目）のうち4回の講義（腎・泌尿器および生殖器疾患と看護、神経疾患と看護、悪性新生物と看護、血液・造血器疾患と看護）を行った。
4 その他		
1. 看護学部10期生Bクラスの担任	2025年4月～	10期生の2年次よりBクラスの担任をしている。課題の

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
2. 看護学部8期生の担任	2022年4月～現在	ある学生への指導や支援を行っている。 2022年度は「初期演習Ⅰ・Ⅱ」を担当した。また、課題のある学生への指導や支援を行っている。
3. 武庫川女子大学 国試対策担当	2016年4月～2022年3月	看護学部の国試対策員として、集団指導や個別指導に取り組んだ。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師 2. 看護師 3. 精神保健福祉士 4. 養護教諭専修		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 研修会：大阪府看護協会 共に育つための教育の基本的知識～改めて教えることについて考えてみよう！～	2025年9月30日	臨床の看護職を対象に、教育方法の工夫、思考発話、心理的安全性等、教育の基本的知識について講義を行った。
2. 大学院博士後期課程における副指導の担当	2023年4月～現在	武庫川女子大学大学院博士後期課程において、大学院生の博士論文の副指導を担当している。
3. 職域接種における新型コロナワクチン接種業務	2021年7月～2021年8月	新型コロナワクチンの接種担当看護師として業務に携わった。
4. 大学院修士課程における副指導の担当	2021年4月～現在	武庫川女子大学大学院修士課程において、大学院生の修士論文の副指導を担当している。
5. 兵庫県看護協会 再就業支援研修会	2017年9月～2018年3月	兵庫県看護協会の再就業支援研修会にて、原則未就業者で就職を希望・計画されている看護師資格所有者を対象に、フィジカルアセスメントの演習を行った。
6. 口唇裂・口蓋裂の子どもを持つ母親へのトリプルP講習	2017年7月～2017年8月	口唇裂・口蓋裂の子どもを持つ母親に対して、グループトリプルPの8回のセッションを行った。
7. 高校生への看護学の模擬授業	2016年12月～現在	高校生に対し、大学の看護学部ではどのようなことを学ぶのか、看護学部にはどのような特徴があるのか、看護師の仕事、バイタルサインの意味、バイタルサインの測定方法について模擬授業を行っている。
8. チャイルドケアミーティング	2016年4月～現在	兵庫医科大学病院を主とした阪神間の病院の看護職と兵庫医療大学および武庫川女子大学の教員で、健康障害を有する小児の事例検討および看護職への講義を行っている。
9. 武庫川女子大学「サマースクール」	2015年8月～2016年8月	武庫川女子大学サマースクールにて小学生を対象とし、2015年度は清潔（手洗いの必要性と手洗い方法）、2016年度は心臓の働きに関する健康教育を行った。
10. 大阪府立寝屋川支援学校教員研修	2011年4月～2014年3月	大阪府立寝屋川支援学校において、教職員向けてんかんを持つ子どもへの対応に関する講義や、救急救命講習を行った。
4 その他		
1. キャリア対策委員	2024年4月～現在	2024年4月から武庫川女子大学のキャリア対策委員を務めている。
2. 看護学部教務委員会	2023年4月～現在	武庫川女子大学看護学科で、教務委員を務めている。
3. 看護学部キャリア委員会	2023年4月～現在	武庫川女子大学看護学科で、キャリア委員を務めている。
4. 臨地実習委員会委員	2021年4月～2023年3月	武庫川女子大学看護学科で新入生の抗体価検査およびワクチン接種指導、インフルエンザワクチン接種指導、実習オリエンテーションの計画・実施、実習指導者運営委員会・研修会の運営ワーキング等、種々の実習関連業務に携わった。
5. 看護学ジャーナル編集委員	2021年4月～2022年3月	武庫川女子大学看護学科で、看護学ジャーナルの編集委員として編集に関わる業務に携わった。
研究業績等に関する事項		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 学童期の口唇裂・口蓋裂児の学校生活に関する支援の検討	単	2020年2月	武庫川女子大学 大学院看護学研究科 看護学専攻 博士論文	小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児を持つ母親への面接調査、小学校高学年の口唇裂・口蓋裂児への面接調査、小学校教員への質問紙調査を実施し、学童期の口唇裂・口蓋裂児の学校生活に関する支援について検討した。
2. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動と心理的状況およびけいれん後の対応	単	2011年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻修士論文	地域の小児科クリニック16箇所を受診した乳幼児の母親で、1年以内にわが子の熱性けいれんを経験した者を対象にした質問紙調査によって、けいれん時の対処行動、心理的状況、その後の対応の現状と関連を分析した。
3 学術論文				
1. 思春期がん患者と親のエンドオブライフの意思決定を支えるための看護実践	共	2025年3月	日本小児看護学会誌, 34, 18-26	思春期がん患者と親のエンドオブライフの意思決定を支えるために看護師が実践している具体的な内容について明らかにするため、小児看護経験5年以上で思春期がん患者のエンドオブライフケア経験がある看護師9名を対象に半構造化インタビューを行った。その結果、【患者や親の治療方針の意思についての確認】、【患者が患者らしく生きるための調整】、【患者に説明するための準備】、【患者や親との信頼関係の形成】、【患者の思いやそこまで把握】の5つのカテゴリが生成された。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：小笠原史士、福井美苗、北尾美香、藤田優一
2. 日本のNICUにおける入院前から退院までの親の意思決定と看護支援に関する国内文献のレビュー	共	2023年	日本小児看護学会誌, 32, 76-83	NICUにおける意思決定の現状とその支援について、文献検討により明らかにすることを目的とした。文献検索は医学中央雑誌Web(Ver. 5)を用いて検索、キーワード「新生児」と「意思決定」を用いて検索、対象は13文献であった。意思決定の内容とその支援は、「出生前から出生後の入院・治療」、「在宅移行とそれに伴う医療的ケア導入」、「治療差し控えや中止、看取り」の3つに分類できた。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：原口梨那、北尾美香、藤田優一
3. Differences in specific concerns perceived by parents of children with cleft lip and/or palate based on the types of cleft (査読付き)	共	2022年5月	International Journal of Paediatric Dentistry, 32 (3), 304-313	口唇裂・口蓋裂患児の両親の間で感じられる心配事の違いを、子どもの性別と年齢を調整した上で、裂型別に比較することを目的に、12歳未満の口唇裂・口蓋裂患児の親171人を対象に自記式質問紙調査を行った。分析の結果、裂型の種類を問わず、「子どもの歯がまっすぐになるかどうか心配である」が最も強く認識される心配事であった。性別と年齢で調整した後、ロジスティック回帰を行ったところ、裂型による有意差が示された。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：Niinomi K, Ueki S, Fujita Y, Kitao M, Matsunaka E, Kumagai Y, Ike M
4. オンラインでの小児実習モデル人形を用いた小児看護学実習に対する学生の意見 (査読付き)	共	2022年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 7, pp.37-47	オンラインで小児看護学実習を行った学生の意見を、小児実習モデル人形を用いたオンライン実習で学んだこと・できたこと、困難に感じたこと・できなかったことについて明らかにすることを目的に、学生6名に半構造化面接調査を行い、内容分析を行った。学んだこと・できたことは45コードあり、【患児と家族に対するコミュニケーションの方法を学べた】【声や動き、カルテの情報で患児の反応をつかめた】など12カテゴリに分類された。困難に感じたこと・できなかったことは41コードあり、【バイタルサインの測定や日常生活援助が経験できなかつた】【人形なので患児の表情や症状の観察ができなかつた】【目線を合わせることが難しかつた】など15カテゴリに分類された。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、福井美苗、植木慎悟、藤田優一

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. 小児科の診療所で勤務する看護師の教育ニーズに関する調査（査読付き）	共	2022年2月	外来小児科, 25(1), pp71-74	<p>小児科の診療所で勤務する看護師の教育ニーズを明らかにすることを目的に、全国の小児科を標榜する診療所の経験年数の最も少ない看護師1名を対象にアンケート調査を行い、56施設より有効回答を得た(有効回答率11.2%)。その結果、対象の現在の診療所での経験年数の平均は5.2年と比較的長かったが、現在の診療所で勤務するまで小児看護の経験がない看護師が半数以上いることが分かった。また、小児看護に関する知識や技術について学びたい内容として、アレルギー、予防接種、育児支援などが多く挙げられた。</p> <p>本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、福井美苗</p>
6. 小学4~6年生の唇顎口蓋裂患児の病気に対する思い（査読付き）	共	2021年12月	日本看護科学会誌, 41, pp.824-831	<p>小学4~6年生の唇顎口蓋裂患児の病気に対する思いを明らかにする。方法:2018年8月~9月にA病院に通院または入院中の小学4~6年生の唇顎口蓋裂患児11名を対象に、病気に対する思いについて半構造化面接を行い、質的記述的研究手法を用いて分析を行った。結果:病気に対する思いは29コードが抽出され、8カテゴリー【生まれたときの自分の口の形や骨がないことを知り驚いた】【自分の歯や人中がないことを聞いても驚かなかつた】【自分の病気は歯が生えないことを改めて実感する】【どうして病気になったんだろう】【病気は治るのかな】【自分の病気は知っておくほうがいい】【病気は他人にはわからないから気にしていない】【重く考えすぎないように普通にふるまつたほうがいい】に分類された。結論:具体的な操作期になり、患児が自分の病気を実感を伴って理解し、そして病気について悩みを抱くことが明らかとなった。患児の病気の理解を深められるように、説明をすることの重要性が示唆された。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、熊谷由加里、池美保、植木慎悟、福井美苗、藤田優一</p>
7. 新型コロナウイルス感染症の拡大による小児の入院環境の変化とその対応策に関する実態調査（査読付き）	共	2021年11月	日本小児看護学会誌, 30, pp.205-212	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大による小児の入院環境の変化と対応策を明らかにするため、全国の小児が入院する病院352施設を対象に横断調査を行った。61施設より回答があり(回答率17.3%)、病床利用率は68.2%から54.6%に低下していた。その理由は「感染症患者(新型コロナウイルス感染症以外)が減少した」が92.5%と最も多かった。プレイルームの利用規則を変更した施設は62.3%であり「使用禁止」や「使用人数の制限」などの変更がされていた。付き添い率は72.6%から65.0%へ低下していた。面会基準は、「親以外は不可」が60.8%と最も多く大きな変化がみられた。入院環境の問題として「面会の制限」、「付き添い者の交代制限」が多く、対応策としてリモート面会や運用マニュアルの作成などが行われていた。感染対策と子どもの権利擁護、付き添い者の負担軽減ができる対応策がとられていた。</p> <p>本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田 優一、植木 慎悟、北尾 美香、福井 美苗</p>
8. 新型コロナウイルス感染拡大下における遠隔と対面を組み合わせた授業方法に対する学生からの評価（査読付き）	共	2021年9月	日本看護科学会誌, 41, pp.148-154	<p>1年次後期専門教育科目「小児看護学概論」におけるオンデマンド型授業、ライブ型授業、対面授業の各授業方法について評価の差異および意見について検討する。方法:第8回授業後に学生73名に無記名自記式のアンケート用紙を配布し、回答を求めた。結果:66名より回答があり、3つの授業方法で理解度や満足度に有意差はなかった。来年度からどのような授業形態がよいかについては、遠隔授業を中心とした授業形態がよいと回答した学生が3分の2を占めていた。結論:大学側と学生側の双方で遠隔授業を行う体制が整っていれば、講義を中心とした科目は遠隔授業で学習することも可能であろう。科目の特性によって遠隔授業と対面授業を使いわけることで、より効率的な学習が可能となることが示された。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
9. 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態—医療者と同じ疾患体験者に関連する心理的側面—（査読付き）	共	2021年4月	日本口蓋裂学会誌、46(1)、25-32	共著者名：藤田 優一、植木 慎悟、 <u>北尾 美香</u> 、福井 美苗 孫の口唇裂・口蓋裂疾患についての告知から初回口唇形成術後までの祖母の心理状態のうち、孫・娘以外の周囲の人である医療者・同じ疾患体験者に対する心理的側面について明らかにすることを目的に、A病院に通院する口唇形成術後の孫をもつ父方・母方祖母に、半構造化面接を行った。分析の結果、【医療者に関連する心理状態】のカテゴリーは【受け入れがたい情報から生じる不安・困惑】、【医療者の適切な介入による安心・信頼】の2つで構成された。【同じ疾患体験者に関連する心理状態】のカテゴリーは【同じ疾患をもつ子どもと家族から得た安堵感】で構成された。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由加里、藤田優一、 <u>北尾美香</u> 、植木慎悟、池美保、古郷幹彦
10. 小学校教諭の口唇裂・口蓋裂に関する認識（査読付き）	共	2021年4月	日本口蓋裂学会誌、46(1)、18-24	小学校教諭のCLPの認識と教諭がCLPのある子どもを指導する上で困難に感じていたことを明らかにすることを目的に、公立小学校教諭6,000名を対象に、自記式質問紙調査を行った。412名から回答が得られ、405名を有効回答として分析した結果、教諭はCLPという病気については、遺伝的要因や環境的要因などが複雑に絡み合って発生する病気という正しいイメージをもち、予後も良いと捉えている一方で、CLPのある子どもは外見に悩むと捉えていたことが明らかとなつた。CLPのある子どもの学校生活における心配事については、教諭はCLPのある子どもが外見や友人関係についての心配事と言葉に関する心配事を抱えていると捉えていたことが明らかとなつた。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名： <u>北尾美香</u> 、植木慎悟、藤田優一
11. The effectiveness of vibratory stimulation in reducing pain in children receiving vaccine injection : A randomized controlled trial. (査読付き)	共	2021年4月	Vaccine. 2021, 39(15): 2080-2087. doi: 10.1016/j.vaccine.2021.03.013.	予防接種を受ける0~6歳の注射時の痛みを軽減するため、振動刺激装置であるBUZZY®の有効性を無作為化比較試験にて検討した。118人を分析対象として分析した結果、親の評価では有意差が得られたものの、盲検化した評価者の評価では有意差が得られなかつた。子どもの年齢が若い、もしくはBUZZY®自体が苦手な子どもは有意に痛みを表出することがわかつた。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：Ueki S, Matsunaka E, Takao K, <u>Kitao M</u> , Fukui M, Fujita Y.
12. 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態—娘・家族に関連する心理的側面—（査読付き）	共	2020年10月	日本口蓋裂学会誌 : 45(3), 213-219	孫の口唇裂・口蓋裂の告知から口唇形成術後までの祖母の心理状態のうち、娘・家族に対する心理的側面について明らかにすることを目的に、A病院に通院する口唇形成術後の孫をもつ父方・母方祖母に半構造化面接調査を行つた。分析の結果、【娘・家族に関連する心理側面】は、【娘の苦悩や家族への影響に対する懸念】、【娘の支援への決心】、【普通に対応する娘や家族への安堵感】、【家族の力による安心感】の4つのカテゴリーで構成された。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由加里、藤田優一、 <u>北尾美香</u> 、植木慎悟、池美保、古郷幹彦
13. 小児科外来の看護師が実施しているスマーズに診療や看護を進めるための判断や工夫 参加観察とインタビューによる調査（査読付き）	共	2020年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル ; 5, 25-32	小児科外来の診療場面において、スマーズに診療や看護を進めるための看護師の判断や工夫について明らかにするために、小児科外来に勤務する看護師の5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。その結果、『時間を短縮するための判断・工夫』『安全に診療をするための判断・工夫』『関係性を築くための判断・工夫』『待ち時間に対する不満を軽減させるための判断・工夫』から構成されていた。 本人担当部分：データ収集と分析、論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、吉田陽子、 <u>北尾美香</u> 、植木慎悟、藤原千恵

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
14. 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態 孫に関連する心理的側面（査読付き）	共	2019年10月	日本口蓋裂学会雑誌； 44(3), 175-181	子、竹島泰弘 孫の口唇裂・口蓋裂の告知から口唇形成術後までの祖母の心理状態を明らかにすることを目的に、A病院に通院する口唇形成術後の孫をもつ父方・母方祖母に、孫の疾患告知後から口唇形成術後の心理状態について、半構造化面接を行った。対象者15人の逐語録について質的記述的分析を行い、4つのコアカテゴリーに分類した。【孫に関連する心理的側面】は【孫の疾患に対するショック】、【孫の疾患から生じる苦悩】、【疾患のある孫の将来への心配】、【孫の疾患を認識することによる安心感】、【前向きな受け止めへの覚悟や決心】、【孫がもたらす幸せ】の6つのカテゴリーで構成された。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由加里、藤田優一、 <u>北尾美香</u> 、植木慎悟、池美保、古郷幹彦、藤原千恵子
15. Parental factors predicting unnecessary ambulance use for their child with acute illness: A cross-sectional study. (査読付き)	共	2019年07月 Epub ahead of print	Journal of Advanced Nursing ; 2019 Jul 26. doi:10.1111/jan.14161.	不要不急な救急車要請を行う親の要因を明らかにするための横断調査を行った。小児科外来に受診した171名の親に対するアンケート調査の結果、「親の不確かさが高い」「子どもの病気の情報源がない」「ヘルスリテラシーが低い」「初めての症状」の4要因が有意に不要不急な救急車要請に関係していることが明らかとなった。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：Ueki S, Komai K, Ohashi K, Fujita Y, <u>Kitao M</u> , Fujiwara C.
16. 胆道閉鎖症を疑われた子ども（新生児）の母親が退院するまでの期間に不安に陥った体験のナラティブ分析（査読付き）	共	2019年07月	日本小児看護学会 ; 28: 235-239. doi:10.20625/jschn.28_235	本研究では、児が胆道閉鎖症を疑われてから病院を退院するまでの期間において、その疾患を否定されたにもかかわらず母親の不安が継続した体験を明らかにすることを目的とした事例検討を実施した。Emdenのナラティブ分析を行った結果、3つのテーマ（「児の病気の重大性」「ほかの症状の見落とし」「母親が行ってきたことの否定」）が抽出された。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、藤田優一、 <u>北尾美香</u> 、藤原千恵子
17. 口唇裂・口蓋裂のある子どもが小学校に入学する際に母親が抱えていた不安（査読付き）	共	2019年05月	小児保健研究; 78 (3): 220-227	口唇裂・口蓋裂のある子どもが小学校に入学する際に母親が抱えていた不安を明らかにすることを目的としたインタビュー調査を行った。対象は小学校低学年の口唇裂・口蓋裂のある子どもの母親13人であり、質的記述的研究手法を用いて分析を行った。その結果、5カテゴリー（【ほかの子どもからの容姿の違いへの指摘】【容姿の違いに関連したわが子が抱く葛藤】【発音の不明瞭さ】【外傷による創の離開】【教員による差別的な発言】）に分類された。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名： <u>北尾美香</u> 、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子
18. 臨地実習指導者としての経験がない看護師の小児看護学実習に対する認識とその関連要因（査読付き）	共	2019年03月	日本小児看護学会誌, 28, 19-26	小児看護学実習を受け入れている病棟に勤務する臨地実習指導者としての経験がない看護師の、小児看護学実習に対する認識と、その認識に関連する要因を分析することを目的に質問紙調査を行った。対象者は、小児看護学実習に対して『子どもや家族のケア効果』を最も強く、次いで『学生指導に対する困難感』を強く認識していた。重回帰分析の結果、対象者は、「業務量」や「子どもが嫌がる処置への対応」といった看護師側に向いたストレスを感じるほど、看護師主体に『いつもどおりにできない負担感』を感じていた。一方で、「子どもと家族への対応」や「難しい対象へのかかわり」といった子どもと家族に向いたストレスを感じるほど、子どもと家族中心に『子どもや家族へのケア効果』や『学生がもたらす摩擦』を感じていた。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：新家一輝、植木慎悟、 <u>北尾美香</u> 、藤田優一、前田由紀、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
19. 幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声かけ（査読付き）	共	2019年03月	日本看護学会論文集:ヘルスプロモーション; 49: 87-90	藤原千恵子 A大学病院の小児科外来に勤務する看護師5名を対象に、幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声かけの内容について調査した。看護師1名につき2日間、のべ10日間の参加観察を実施した。観察内容をフィールドノートに記録し、記録した内容について、コード化、カテゴリー化の分析を行った。幼児の採血場面での看護師の声かけは、4つの場面（「採血室に入室した時」「採血の直前」「採血針の穿刺中」「採血直後」）に分けられた。場面ごとに「辛い症状に共感する」「不安を和らげる」「ディストラクションを行う」「もう痛くないことを説明する」などのカテゴリーが得られた。 本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、吉田陽子、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
20. 小児科外来の看護師が認識する「保護者の小児科外来に対する満足度」の関連要因（査読付き）	共	2019年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル; 4: 47-54	小児科外来の看護師が認識する「保護者の小児科外来に対する満足度」に対する関連要因について明らかにするため、調査票を用いた横断研究を実施した。小児が入院する136施設より回答を得た。看護師が認識する保護者の満足度の平均は、100点中57.8点であった。この満足度を従属変数とした重回帰分析では、医師と看護師の人間関係、待ち時間、医師の子どもや保護者への対応、小児科経験の浅い看護師の教育、複数の検査がある場合は結果ができるまでの時間が長い検査から実施することの5項目が有意な関連要因であった。 本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
21. ジグソー法を取り入れたアクティブーラーニングに対する学生からの評価 小児看護学演習科目における看護過程展開の実践報告（査読付き）	共	2019年02月	日本看護科学会誌; 38: 237-244	2年次後期の小児看護学演習科目における看護過程の展開でジグソー法を取り入れたアクティブラーニングを実施し、その実施後の学生からの評価について示した。学生76名を4人1組19グループに分け、4つのアセスメントの視点（疾患・治療・生活・成長・発達、家族）ごとにエキスパートグループでアセスメントを深め、もとのジグソーグループに戻り教え合った。その後、関連図作成、問題明確化、計画立案をした。65名からの有効回答により、「積極的に参加できた」「責任を持って参加できた」という学生が9割以上を占め、ジグソー法の満足度は平均80.5点という結果を得た。 本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
22. Resilience and difficulties of parents of children with a cleft lip and palate. (査読付き)	共	2019年02月	Japan Journal of Nursing Science. 2019; 16(2): 232-237 DOI: 10.1111/jjns.12231	口唇口蓋裂を持つ小児の両親64ペアに対し、レジリエンスおよび困難感についてのアンケート調査を行った。母親は父親よりも小児の将来を心配する気持ちと自らを責める傾向にあった。一方で、レジリエンスの中の問題解決力と受け止め力の点において母親よりも父親のほうが高かった。 本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、藤田優一、北尾美香、熊谷由加里、池美保、新家一輝、松中枝理子、藤原千恵子
23. 小児科外来の看護師が受付から診察が終わるまでの間に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫（査読付き）	共	2018年11月	外来小児科, 21(3), 456-459	総合病院の小児科外来の看護師が、受付から診察が終わるまでの間に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにするため調査をし、62名から回答があった。コードは11カテゴリーに類型化され、【問診を行い情報を得る】【重症患者を優先する】【待ち時間への配慮を行う】【診察の前に計測や検査を行う】【診察が滞らないように事前に準備しておく】などに類型化された。 本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
24. 母親から口唇裂・口蓋裂のある子どもへ	共	2018年10月	日本口蓋裂学会雑誌, 43(3), 216-222	母親が口唇裂・口蓋裂のある子どもへ疾患の説明をした際の契機とその理由を明らかにすることを目的に、小学校低学年の口唇裂・口

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
疾患の説明をした際の契機とその理由（査読付き）				<p>蓋裂のある子どもをもち、既に子どもへの疾患の説明をしている母親13名を対象に半構造化面接を行った。分析の結果、疾患の説明の契機は、【小学校入学を契機に】【手術を契機に】【子どもの疑問を契機に】【日々の生活の中で】の4カテゴリーに分類された。</p> <p>【小学校入学を契機に】には、＜小学生になつたら友達から病気のことを指摘されることがあると思ったため＞などが、【手術を契機に】には＜手術を受けるときに、父親が隠さず話すべきと考えたため＞などが、【子どもの疑問を契機に】には、＜小学校入学前までにと思っていたが、保育園の年中あたりで、友達に傷のことを聞かれたが本人が答えられず、傷のことを聞いてきたため＞などが、【日々の生活の中で】には、＜病気を隠そうという気持ちはなく、本人が分かるようになつたら言おうと思っていたため＞などが分類された。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：北尾美香、熊谷由加里、高野幸子、池美保、植木慎悟、藤田優一、古郷幹彦、藤原千恵子</p>
25. 看護師を対象とするデルファイ法を用いた国内文献の研究手順の実態（査読付き）	共	2018年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 3, 35-42	<p>デルファイ法を施行する際の指針を作成する一助とするために、看護師を対象とするデルファイ法を用いた国内文献の調査手順の実態について明らかにすることを目的として文献検討を行い、研究論文29件を分析対象とした。デルファイ法のラウンド数は概ね3、4回、同意率は80%が多かった。最終段階の参加者数は50～60名程度確保できれば十分であるが、11～20名の文献も少なからずみられた。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、論文内容の妥当性</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、前田由紀、藤原千恵子</p>
26. 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の疾患に関連した否定的な体験に対する母親の認識（査読付き）	共	2018年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 3, 15-24	<p>小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親が認識している児の学校での疾患に関連した否定的な体験とそれに対する母親の思いを明らかにすることを目的に、小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親13名に半構造化面接調査を行い、内容分析法にて分析した。母親は口唇裂・口蓋裂児の否定的な体験として【容姿や行動の違いへの指摘に自分で対応できた】【容姿の違いへの指摘や病気の暴露に苦痛を感じていた】と認識していた。その体験に対して母親は【疾患に関連したからかいは起こるものだ】【疾患に関連したからかいによる子どもの苦痛をわかってあげたい】【子どもが自分でからかいに対応できるようになって欲しい】【子どもに自分の疾患を前向きに捉えて欲しい】【教師はからかいに適切に対応して欲しい】と思っていることが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：北尾美香、熊谷由加里、高野幸子、池美保、古郷幹彦、植木慎悟、藤田優一、藤原千恵子</p>
27. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親が医療者に期待する支援と実際に受けた支援（査読付き）	共	2017年10月	日本口蓋裂学会雑誌, 42(3), 187-193	<p>口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、父親235名に質問紙調査を実施した。父親が期待する支援として最も多かった項目は「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれる」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言してくれる」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳などの具体的な助言してくれる」であり、実際に受けた支援も同様であった。医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りの割合が最も多かった。4割以上の父親が期待以下だと回答した項目は「園や学校に対して必要時に専門的な説明や注意事項などの連絡してくれる」、「医療費や医療制度の相談にのってくれる」、「親族や友人などに子どものことを尋ねられた時の対応を助言してくれる」であった。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
28. 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスマーズにさせるための技術・工夫（査読付き）	共	2017年07月	日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション, 47, 107-110	共著者名：松中枝理子、 <u>北尾美香</u> 、古郷幹彦、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 小児科外来の看護師が、処置・検査中に実施している診療や看護をスマーズにさせるための技術・工夫について明らかにするために小児科外来に勤務する看護師を対象に調査を行った。63名より回答があり、記録単位は計105件、コード数は45件であった。カテゴリーとして「デストラクションの実施」「プレゼンテーションの実施」「処置検査時は保護者同伴で実施」などが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、 <u>北尾美香</u> 、植木慎悟、藤原千恵子
29. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親が医療者に期待する支援と実際に受けた支援（査読付き）	共	2017年07月	日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション, 47, 103-106	口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名： <u>北尾美香</u> 、松中枝理子、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子
30. 小児用転倒・転落リスクアセスメントツール C-FRAT第3版の評価者間信頼性の検証（査読付き）	共	2017年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 2, 45-51	小児用転倒・転落リスクアセスメントツールC-FRAT(Child Falls Risk Assessment Tool)第3版の評価者間信頼性を明らかにするため13名の看護師の一致度を調査した。各アセスメント項目のカッパ係数は0.414～1.000であり、リスク判定結果のカッパ係数は0.852であった。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、 <u>北尾美香</u> 、藤原千恵子
31. 臨地実習指導者経験による看護師の小児看護学実習に対する認識と職務ストレスおよび看護キャリア認知の差異（査読付き）	共	2016年3月	日本看護学教育学会誌, 25(3), 25-35	小児看護実習を受け入れている病棟の看護師を対象に質問紙調査を行い、臨地実習経験の有無が小児看護学実習に対する認識、職務ストレスおよび看護キャリア認知において差異があるかを分析した。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤原千恵子、木村涼子、林みづほ、高島遊子、新家一輝、植木慎悟、 <u>北尾美香</u> 、藤田優一
32. 専門医療機関の口唇裂・口蓋裂の子どもをもつ母親に対する看護援助の内容とその問題（査読付き）	共	2016年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 1, 53-61	口唇裂・口蓋裂の治療を行っている専門病院での看護経験の豊富な看護師11名の面接調査を行った。母親に対する看護についての語りから、専門医療機関外での看護援助の内容と看護援助をする上で看護師を感じている問題を抽出し、カテゴリー化した。看護師は、専門医療機関内での援助と出向して行う看護援助を多様に実施しており、実施するうえの看護師間の連携や病院組織のシステムに関する問題を認識していることが明らかになった。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤原千恵子、池美保、西尾善子、松中枝理子、藤田優一、新家一輝、高島遊子、植木慎悟、 <u>北尾美香</u> 、石井京子
33. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動と心理的状況（査読付き）	共	2014年03月	外来小児科, 17(1), 2-9	地域の小児科クリニック16箇所において、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、回収された135名のうち不備の多いものを除く106名を分析対象とし、熱性けいれん時の対処行動と心理状態の特徴を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
34. 看護職者による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性と実施の相互関係（査読付き）	共	2011年01月	第41回日本看護学会論文集:看護総合, 41, 56-59	共著者名：北尾美香、藤原千恵子 研究協力が得られた13施設の3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、回収された341名のうち不備が多かった回答を除外し、303名を分析対象とし、看護職者のキャリア発達によつて患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性と実施の相互関係を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：常松恵子、北尾美香、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子、
35. 看護職者のキャリア発達による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性の認知（査読付き）	共	2011年01月	第41回日本看護学会論文集:看護総合, 41, 52-55	研究協力が得られた13施設の3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、回収された341名のうち不備が多かった回答を除外し、303名を分析対象とし、看護職者のキャリア発達によつて患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性に違いがあるかを分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、常松恵子、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
36. 看護職者による患者家族のレジリエンスを引き出す支援とその支援に影響する要因（査読付き）	共	2010年12月	家族看護研究, 16(2), 46-55	3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族に対するレジリエンスを引き出す支援、およびその影響する背景要因を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：新田紀枝、河上智香、高城智圭、高城美圭、北尾美香、常松恵子、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
37. 育児体験ストレスに小児看護学実習が与える影響の主観的・客観的判定（査読付き）	共	2008年2月	第38回日本看護学会論文集：小児看護, 38, 173-175	小児看護実習を終了した学生10名と未終了の学生10名を対象に、啼泣乳児モデルの世話を実施した前後に脈拍や唾液を使用し生理的指標と心理学指標を用いて、乳児の啼泣から受けるストレスの程度を比較分析し、小児看護学実習の受講の有無による影響を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：河上智香、北尾美香、石井京子、藤原千恵子
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. こどもの入院時に付き添いをした経験がある母親への調査（第2報）：付き添い者の負担軽減をするための支援への認識	共	2025年7月	日本小児看護学会 第35回学術集会（仙台市）	付き添い経験のある母親200名を対象に、付き添い者負担軽減支援への認識をWeb調査で明らかにした。相談しやすい雰囲気やWi-Fi設置、快適なベッド、外出時間の確保への賛同が多かった。病院食は500円、代行業者は「利用しない」が最多で、依頼内容は「そばにいる」「病状観察」「身の回りの世話」が多く、公的支援の必要性が示唆された。 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、福井美苗、小笠原史士
2. こどもの入院時に付き添いをした経験がある母親への調査（第1報）：入院満足度と付き添い環境との関連、診療報酬改定前後の比較	共	2025年7月	日本小児看護学会 第35回学術集会（仙台市）	入院時に付き添い経験のある母親200名を対象に、入院満足度と付き添い環境の関連、診療報酬改定前後の差異を調査した。HPSQ-13の平均は「コミュニケーション」72.9などで、6項目で環境との有意差を認めたが、改定前後では差はなかった。交代・面会制限や食事提供の有無が満足度に影響し、温かい栄養食の提供が親の体調維持と満足度向上に有効と示唆された。 共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、福井美苗、小笠原史士
3. 重篤な疾患を持つ児の治療に関する協働意思決定で実施される看護支援と関連す	共	2024年7月	日本小児看護学会 第34回学術集会（大阪府、大阪市）	NICUで重篤な疾患を持つ児の協働意思決定の際に実施される看護支援と関連する要因について明らかにするために、NICUでの経験が1年以上の看護師を対象に質問紙調査を行った。 本人担当部分：分析の妥当性

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
る要因				担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：原口梨那、北尾美香、藤田優一
4.Ward-specific Differences in Pediatric Hospitalization Environments	共	2024年7月	日本小児看護学会 第34回学術集会 (大阪府、大阪市)	This study aimed to determine differences in hospitalization environments based on ward type, including criteria for determining whether parents should stay with their child, visitation criteria, number of nurses, and the average length of hospital stay 共著名： <u>Mika Kitao</u> , Hitoshi Ogasawara, Minae Fukui, Shingo Ueki , Yuichi Fujita
5.Conducting a Delphi Technique Survey: Exploring Support Strategies to Alleviate Parental Burden, Emphasizing Infection Control and Safeguarding Children's Rights	共	2024年7月	日本小児看護学会 第34回学術集会 (大阪府、大阪市)	The widespread impact of coronavirus disease 2019, jeopardized children's rights, and escalated the burden on parents, particularly in settings where children were hospitalized. This study aims to establish consensus on the following: (1) criteria for determining whether parents should stay with their child, (2) strategies for alleviating the burden on parents focusing, and (3) measures to safeguard the rights of the child on infection control. 共著名：Yuichi Fujita, Minae Fukui, Hitoshi Ogasawara, <u>Mika Kitao</u> , Shingo Ueki
6.Evaluating Nurses' Decision-Making Support for Adolescents with Cancer at End-of-Life and Their Parents: A Delphi Technique Study	共	2024年7月	日本小児看護学会 第34回学術集会 (大阪府、大阪市)	This study aimed to identify "nurses' decisionmaking support for adolescents with cancer at end-of-life and their parents" which was consented by nurses experienced in end-of-life care of adolescent cancer patients. 共著名：Hitoshi Ogasawara, Minae Fukui, <u>Mika Kitao</u> , Yuichi Fujita
7.感染対策を考慮した子どもの権利を擁護するための支援、付き添い者の負担軽減をするための支援 病棟形態別の実施可能率の比較	共	2024年6月	第71回日本小児保健協会学術集会 (北海道札幌市)	感染対策を考慮した子どもの権利を擁護するための支援と付き添い者の負担軽減をするための支援について、病棟形態別の実施可能率を比較して差異について明らかにすることを目的に、看護師長または副看護師長を対象に質問紙調査を行った。 共著者名：小笠原史士、福井 美苗、北尾美香、植木慎悟、藤田 優一
8.Concept Analysis in Decision-Making Support for Adolescents with Cancer and Their Parents	共	2024年3月	27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024)	思春期がん患者とその親の意思決定支援について、国内外の文献から概念分析を行った。分析の結果、7つの属性【患者や親との信頼関係の構築】【患者のニーズや病状への思いについてのアセスメント】【親の価値観や考えについてのアセスメント】【意思決定をするための適切な情報提供】【患者の意思表出を促す援助】【親と患者の思いや考えが対立する際の仲介役】【患者や親の選択への寄り添い】、4つの先行要件、3つの帰結が抽出された。 本概念は、「患者や親と信頼関係を構築し、患者のニーズや病状への思い、親の価値観や考えについてアセスメントし意思決定できるよう適切な情報提供を行う。患者の意思表出を促し、親と患者の考えが対立する場合は仲介役となり、患者や親が出した選択には寄り添うこと」と定義した。“親と患者の仲介役になる”のように意思決定できる年齢にありながらも親が代わりに意思決定するといった思春期の特徴が表れた。 共著者名：小笠原史士、福井美苗、北尾美香、藤田優一
9.Challenges faced by Japanese pediatric nurses in providing healthcare transition support and decision-making support	共	2024年3月	27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024)	小児と関わる看護師が、移行支援または意思決定支援を行う上で、困っていることを明らかにすることを目的とし、無記名自記式のWebアンケートを用いた横断調査を行った。質問項目「慢性疾患を抱える子どもへの意思決定支援について、ご自身の経験やご意見などございましたら、ご自由に記載してください」の回答について分析を行った。回答で得られた自由記載の内容について質的内容分析を使用して分析を行った。回答者は81名の看護師であった。その中から、分析対象となる回答60名のデータを分析した。移行期支援・移行期における意思決定支援を行う上で困っていることには、101コードから16カテゴリーが抽出された。日本の移行期支援・意思決定支援

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
10.新生児集中ケア認定看護師が経験した重篤な疾患を持つ児の治療方針の協働意思決定で困難を感じた状況	共	2023年7月 15日～16日	日本小児看護学会 第33回学術集会 (神奈川県横浜市)	<p>を充実させるには、看護師だけではなく特に小児科医には移行の必要性を理解してもらう必要があり、成人内科医にも成人移行の重要性を分かってもらうことが大切です。看護師が移行期支援を患者に実施する時間がまだないから、移行期の患者をとりまく医療システムの充実(例えば診療報酬)が必要であると考える。</p> <p>共著名: Minae Fukui, Hitoshi Ogasawara, Mika Kitao, Junko Honda, Yuichi Fujita</p> <p>新生児集中ケア認定看護師が経験した重篤な疾患を持つ児に対する生命維持治療の差し控えや中止についての協働意思決定で困難を感じた状況について明らかにすることを目的に、新生児集中ケア認定看護師14名を対象に半構成面接調査を行った。分析の結果、重篤な疾患を持つ児に対する生命維持治療の差し控えや中止についての協働意思決定で困難を感じた状況は、【治療方針に関する医療者間での意見の相違】【治療方針について親と医療者が一緒に話し合う機会がない】【親と医療者の治療方針に対する意見の相違】【治療方針の決定に関する親の葛藤】【親とのかかわり方の難しさ】の5カテゴリに分類された。</p> <p>本人担当部分: 分析の妥当性</p> <p>担当ページ: 共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>
11.コロナ禍で入院する子どもとその親に対する看護師の実践～子どもの権利擁護と付き添いや面会に関する親の負担軽減への工夫～	共	2023年7月 15日～16日	日本小児看護学会 第33回学術集会 (神奈川県横浜市)	<p>共著者名: 原口梨那、北尾美香、藤田優一</p> <p>感染対策を行いつつ実施している「子どもの権利擁護」および「付き添いや面会に関する親の負担軽減」の具体的な工夫点について明らかにすることを目的に、小児が入院する病棟の看護師長または副看護師長を対象に、半構造化面接を行った。分析の結果、付き添いや面会に関する子どもの権利擁護への工夫点は【家族間のつながりへの支援】【子どもの遊びへの支援】【学習の機会の保障】【院内のイベントの開催】の4カテゴリに分類された。付き添いや面会に関する親の負担軽減への工夫点は【付き添い交代への配慮】【付き添う親への精神的な支援】【付き添う親への入院生活の支援】【面会ができない親への配慮】の4カテゴリに分類された。</p> <p>本人担当部分: データ収集、分析の妥当性</p> <p>担当ページ: 共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名: 藤田 優一、植木 慎悟、北尾美香、福井 美苗、小笠原史士</p>
12.思春期がん患者のエンドオブライフにおける患者と家族の意思決定を支える支援	共	2023年7月 15日～16日	日本小児看護学会 第33回学術集会 (神奈川県横浜市)	<p>思春期がん患者のエンドオブライフにおける患者と家族の意思決定を支えるために安吾氏が実践している具体的な内容について明らかにするために、小児看護経験5年以上の看護師7名を対象に半構造的面接を実施した。分析の結果、思春期がん患者のエンドオブライフにおける患者と家族の意思決定を支える支援として、【患者の疾患や予後に対する認識の情報収集】【患者の意思決定を促す援助】【親の意思決定を支えるための関わり】【患者や親の意思決定を支えるための医療者間の連携】【患者が意思決定できるための心理面・体調面のコントロール】の5カテゴリに分類された。</p> <p>本人担当部分: 分析の妥当性</p> <p>担当ページ: 共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名: 小笠原史士、藤田優一、北尾美香、福井美苗</p>
13.慢性疾患患児への意思決定支援の実施状況～小児が入院する病棟看護師の外来経験での比較～	共	2023年7月 15日～16日	日本小児看護学会 第33回学術集会 (神奈川県横浜市)	<p>小児が入院する病棟看護師の外来経験による慢性疾患患児への意思決定支援の実施状況の差異を明らかにすることを目的に、530名の看護師へ無記名自記式webアンケート調査を行った。分析の結果、外来経験あり群の方がなし群よりも慢性疾患患児への意思決定支援39項目において、有意に実践の程度が高かった。</p> <p>本人担当部分: 分析の妥当性</p> <p>担当ページ: 共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名: 福井 美苗、小笠原 史士、北尾美香、本田 順子、藤田 優一</p>
14.学童期の唇顎口蓋裂患児と親に対するセルフケアの自立に向けた看護師の援助内	共	2023年7月 15日～16日	日本小児看護学会 第33回学術集会 (神奈川県横浜市)	<p>学童期の唇顎口蓋裂(以下、CLP)患児と親に対するセルフケアの自立に向けた看護師の援助内容について明らかにするために、学童期のCLP患児と親への看護実践経験が5年以上ある看護師5名を対象に、半構造化面接調査を行った。質的記述的分析法を用いて分析し</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
容				た結果、学童期のCLP患児と親に対するセルフケアの自立に向けた援助内容は【患児のセルフケア能力をアセスメントする】【患児のやる気を引き出す】【ステップアップでできるようにする】【患児の理解を促す】【親のケア能力を高める】【親子の意見を調整する】の6カテゴリに分類された。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、小笠原史士、福井 美苗、藤田 優一 小児と関わる看護師が考える、慢性疾患を抱える子どもへの意思決定支援について「実践の程度」と「意義の程度」の差を明らかにすることを目的に無記名自記式のWebアンケートを行った。50項目の意思決定支援について、47項目で「意義の程度」が「実施の程度」より有意に高得点であった。看護師は意思決定支援に対して意義を感じているが、日々の実践が少ないため、具体的な実践方法を広める必要があることが示唆された。
15.Differences in Practice and Degree of Significance to Enhance Decisionmaking Abilities for Pediatric Nurses in Japan	共	2023年2月10日～2023年3月19日	26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2023) (Tokyo)	本人担当部分： 分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名： Fukui M, Ogasawara H, <u>Kitao M</u> , Honda J, Fujita Y 養護教諭が小学生の口唇口蓋裂児を指導する上で感じていた困難さを明らかにすることを目的に質問紙調査を行い、回答があった8名を分析対象とした。分析の結果、“不明瞭な発音から生じる問題” “教職員間の共通理解” “CLP児の保護者への対応” “自己肯定感の育成” “外傷への対応” の5カテゴリに分類された。
16.Difficulties faced by elementary school nurse teachers in dealing with students with cleft lips and/or palates	共	2023年2月10日～2023年3月19日	26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2023) (Tokyo)	本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名： <u>Kitao M</u> , Fujita Y, Ueki S
17.Effectiveness of Triple P for parental difficulties of mothers having children with cleft lip and/or palate	共	2022年7月11日～7月15日	CLEFT2022 (Edinburgh, UK)	口唇口蓋裂児の母親を対象にPositive Parenting Programを実施し、その前後で、育児に関する質問紙調査を実施して育児困難の効果を検証した。対象者5名に実施した結果、すべての因子に有意差はなかったが、ある母親は、歯科検診を嫌がる子どもがスムーズに受診できるようになったという効果を実感していた。また、研修を契機に、父親が育児をするようになったり、母親が他の母親と交流を深める傾向があった。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名： Ueki S, <u>Kitao M</u> , Kumagai Y, Fujita Y
18.オンラインで小児看護学実習を受講した学生の意見－第2報：できなかつたこと－	共	2021年12月	第41回日本看護科学学会学術集会（オンライン開催）	オンラインで小児看護学実習を受講した学生の意見のうち、できなかつたことの内容を明らかにすることを目的に、小児看護学実習をオンラインで受講した学生6名を対象に半構造化面接調査を行った。分析の結果、オンライン実習でできなかつたことは、「母親ではなく教員だと思うときがあり、やりにくかった」「バイタルサインの測定や日常生活援助が経験できなかつた」「人形なので患児の表情や症状の観察ができなかつた」「患児に直接触れることができなかつた」「看護師の手技が見られなかつた」など16カテゴリに分類された。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：福井 美苗、北尾美香、植木 慎悟、藤田 優一
19.オンラインで小児看護学実習を受講した学生の意見－第1報：学びとできたこと－	共	2021年12月	第41回日本看護科学学会学術集会（オンライン開催）	オンラインで小児看護学実習を受講した学生の意見のうち、学びとできたことの内容を明らかにすることを目的に、小児看護学実習をオンラインで受講した学生6名を対象に半構造化面接調査を行った。分析の結果、オンライン実習での学びとできたことは小児看護学実習に関連するカテゴリとして「子どもと家族に対するコミュニケーションの方法を学べた」「小児病棟の療養環境をイメージできた」「子どもと家族の両方を看護する必要性を学んだ」「成長発達や疾患について理解できた」などの6カテゴリ、小児看護学実習以外にも関連するカテゴリは「人形でも返事をするので普通に話せるようになった」「緊張しないでできた」「自分で情報収取する項目を考えることができた」「自分のペースで学習できた」など6カテゴリに分

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
20. 唇顎口蓋裂のある小学生の学校生活における疾患に関連した体験	共	2020年09月19日～2020年9月30日	日本小児看護学会 第30回学術集会 (オンライン学術集会)	<p>類された。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>北尾美香</u>、福井 美苗、植木 慎悟、藤田 優一 唇顎口蓋裂のある小学生の学校生活における疾患に関連した体験を明らかにすることを目的に、小学校4～6年生の唇顎口蓋裂児12名を対象に半構造化面接調査を行った。分析の結果、子どもが学校生活において疾患に関連した体験は【CLPに関連した対応】【他人からの援助】【CLPに関連した対応の拒否】【CLPに関する不快な気分】【CLPに関する不快な気分のなさ】【CLPに関連した友達への思い】【CLPに関する友達からの疑問】【CLPに関連する学校生活の制限】に分類された</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>北尾美香</u>、植木慎悟、藤田優一</p>
21. 小児科の診療所で勤務する看護師の教育の現状とニーズに関する調査	共	2020年09月19日～2020年9月30日	日本小児看護学会 第30回学術集会 (オンライン学術集会)	<p>小児科の診療所で勤務する看護師の教育の現状とニーズについて明らかにすることを目的として調査を実施した。64施設よりアンケートが返送され、子どもの看護について独学で学ぶ際に使用している教材は複数回答で、「小児看護のテキストや雑誌」85.5%、「インターネット」72.7%であった。学びたい程度の平均値が高かった項目は、「アレルギーについて」「予防接種について」などであった。</p> <p>本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>藤田優一</u>、植木慎悟、<u>北尾美香</u></p>
22. スマートフォンのビデオ機能を用いた自己の振り返りによる絵本の読み聞かせ技術評価	共	2020年09月19日～2020年9月30日	日本小児看護学会 第30回学術集会 (オンライン学術集会)	<p>2年次における絵本の読み聞かせの演習時に、スマホで動画撮影して振り返る方法が読み聞かせ技術にどの程度影響するのかを聞き手の立場から評価することを目的として調査を実施した。83人のデータを分析した結果、読み聞かせ技術の9項目すべてにおいて、2回の方が1回目より有意に高い結果となった。学習達成度の平均は86.50%、学習満足度の平均は89.17%であった。</p> <p>本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、藤田優一、<u>北尾美香</u></p>
23. 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態 「娘・家族に関連する心理的側面	共	2020年6月	第44回 日本口蓋裂学会総会・学術集会 (日本口蓋裂学会雑誌 抄録号(第45巻2号p.171) 誌面開催)	<p>孫の口唇裂・口蓋裂疾患についての告知直後から口唇形成術後までの祖母の心理状態を明らかにすることを目的に、口唇形成術後(生後約3ヶ月)の孫をもつ父方あるいは母方祖母15人を対象に半構造化面接調査を行った。分析の結果、「娘・家族に関連する心理的側面」は、【娘の苦悩や家族への影響に対する懸念】、【娘の支援への決心】、【普通に対応する娘への安堵感】、【家族の力による安心感】の6カテゴリに分類された。</p> <p>本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由加里、藤田優一、<u>北尾美香</u>、植木慎悟、池美保、古郷幹彦</p>
24. 小学校高学年の唇顎口蓋裂児の疾患に対する認識	共	2020年06月	第44回 日本口蓋裂学会総会・学術集会 日本口蓋裂学会雑誌 抄録号(第45巻2号p.128) 誌面開催	<p>小学校高学年の唇顎口蓋裂児の疾患に対する認識を明らかにすることを目的に、小学校4～6年生の唇顎口蓋裂児12名を対象に半構造化面接調査を行った。分析の結果、子どもの疾患に対する認識は、【CLPへの関心】【CLPへの関心のなさ】【治療への積極性】【CLPの受け入れ】【CLPへの否定的な見方】で構成されていた。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>北尾美香</u>、熊谷由加里、池美保、植木慎悟、古郷幹彦、藤田優一</p>
25. 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態 孫に関連する心理的側面	共	2019年05月	第43回日本口蓋裂学会総会・学術集会(新潟県新潟市)	<p>孫の口唇裂・口蓋裂疾患についての告知直後から口唇形成術後までの祖母の心理状態を明らかにすることを目的に、祖母への半構造化面接調査を行った。その結果、孫に関連する心理的側面は、【孫の疾患に対するショック】【孫の疾患から生じる苦悩】【疾患のある孫の将来への心配】【孫の疾患の受け止め】【前向きな受け止めへ</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
26. 幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声かけ	共	2018年09月	第49回日本看護学会：ヘルスプロモーション（岡山県岡山市）	<p>の強い気持ち】【孫がもたらす幸せ】の6カテゴリーに分類された。</p> <p>本人担当部分：分析の妥当性</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：熊谷由加里、藤田優一、<u>北尾美香</u>、植木慎悟、池美保、古郷幹彦、藤原千恵子</p> <p>幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声かけの内容について明らかにするため、小児科外来の看護師5名を対象に参加観察を実施した。看護師の声かけのコード数は43であった。これらのコードを分類し、【辛い症状に共感する】【理解度を確認する】【採血方法を選択してもらう】【コミュニケーションをとる】【不安を和らげる】【今からすることについて説明する】などのカテゴリーに分類された。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>
27. ジグソー法を用いたグループワークに対する学生からの評価：小児看護学演習科目における看護過程の展開	共	2018年08月	日本看護学教育学会第28回学術集会（神奈川県横浜市）	<p>共著者名：藤田優一、植木慎悟、<u>北尾美香</u>、藤原千恵子</p> <p>協調学習のひとつであるジグソー法を取り入れたグループワークを実施し、看護系大学2年生65名の学生からの評価について明らかにした。学生からの評価としてグループワークの満足度の平均は100点満点中80.5点であった。自由回答では「メンバーに欠席者がいると負担が大きくなる」などの意見がみられた。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>
28. Effectiveness and smoothness of the implementation of paediatric outpatient nursing techniques in Japan.	共	2018年08月	International Conference on Nursing Science & Practice 2018 (London, UK)	<p>共著者名：藤田優一、植木慎悟、<u>北尾美香</u>、藤原千恵子</p> <p>136施設から回答を得たアンケート調査によって、小児科外来における診察前・診察中・検査中のスムーズな診療につなげる看護技術の項目が明らかとなった。子どもや親の安全性につながる技術はそれほど多くの施設では行われていなかったが、それらはコストがかかる理由も考えられる。費用対効果を考慮したほかの技術も考慮される。</p> <p>本人担当部分：分析の妥当性</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>
29. 小児の転倒・転落防止対策に対する看護師の認識と病棟の転倒・転落防止に対する取り組みの状況との関連	共	2018年07月	小児看護学会第28回学術集会（愛知県名古屋市）	<p>共著者名：植木慎悟、藤田優一、<u>北尾美香</u>、藤原千恵子</p> <p>看護師の転倒・転落防止対策に対する実施すべきという認識と病棟の転倒・転落防止に対する取り組みの状況との関連性について明らかにすることを目的とし、小児が入院する17病棟に勤務する看護師を対象として調査を行なった。110名より回答があり、転倒・転落防止対策44項目の認識のうち、病棟の取り組みの状況と有意な相関がみられた対策は17項目であった。</p> <p>本人担当部分：分析の妥当性</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>
30. 小学校勤務の養護教諭の個人要因による口唇裂・口蓋裂に関する疾患・治療・学校生活での心配事の認識の差異	共	2018年07月	小児看護学会第28回学術集会（愛知県名古屋市）	<p>共著者名：藤田優一、植木慎悟、<u>北尾美香</u>、藤原千恵子</p> <p>小学校勤務の養護教諭の個人要因による口唇裂・口蓋裂に関する疾患・治療・学校生活での心配事の認識の差異を明らかにすることを目的に、養護教諭1000名を対象に自記式質問紙調査票を行った。</p> <p>CLPについての病気のイメージに対して、看護師免許取得者が3項目で有意に肯定的な捉え方をしており、また身近にCLP者が存在しない養護教諭がCLPは「遺伝する」と、疾患を誤解して捉えていた。CLPの治療のイメージでは、CLP児の在籍経験のないものは有意に「手術は小学校入学前までに終わる」と捉えていた。学校生活でのCLP児の心配事は、看護師免許非取得者と経験年数の短い養護教諭が有意に、CLP児が心配していると捉えていた。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表</p> <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>
31. 小学校教諭の個人要因による口唇裂・口蓋裂のイメージの差異	共	2018年06月	第65回日本小児保健協会学術集会（鳥取県米子市）	<p>共著者名：<u>北尾美香</u>、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子</p> <p>小学校教諭の個人要因による口唇裂・口蓋裂のイメージの差異を明らかにすることを目的に、公立小学校教諭6000名を対象に、自記式質問紙調査を行った。肯定的なイメージでは、教諭経験年数は1項目で有意差がみられ、経験年数平均以上群が平均未満群よりも有意に</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
32. 口唇裂・口蓋裂児へ病気を説明した際の契機とその理由	共	2018年05月	第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会（大阪府大阪市）	<p>高かつた。否定的なイメージでは、教諭経験年数は2項目で、身近なCLP者の存在は10項目で、CLP児の担任経験は5項目で、CLPの知識は11項目で有意な差がみられ、CLPを知る機会が少ない教諭がCLPに否定的なイメージを持ち、CLPを誤解して捉えていたことが明らかとなつた。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 母親が口唇裂・口蓋裂児へ疾患の説明をした際の契機とその理由を明らかにすることを目的に、小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児をもつ母親13名を対象に、半構造化面接を行つた。カテゴリー化の結果、母親たちが疾患の説明をおこなったきっかけは、『小学校入学を契機に』『手術を契機に』『児の疑問を契機に』『日々の生活の中で』に分類された。</p>
33. 子どものホームケア方法の情報提供を目的としたホームページ開設の試み	共	2018年04月	第33回近畿外来小児科 学研究会	<p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤田優一、熊谷由加里、高野幸子、池美保、古郷幹彦、植木慎悟、藤原千恵子 小児科外来でよく見られる子どもの症状に対応する親の看護力向上を狙いとして、ホームケア方法を掲載したスマートフォン対応型ホームページ（HP）を開設した背景や今後の展望について報告した。</p>
34. デルファイ法を用いた国内の看護系文献の検討	共	2018年03月	日本看護研究学会 第31回 近畿・北陸地方会学術集会（兵庫県西宮市）	<p>本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子 デルファイ法を施行する際の指針を作成する一助とするために、看護師を対象とするデルファイ法を用いた国内文献の調査手順の実態について明らかにすることを目的として文献検討を行い、研究論文29件を分析対象とした。最終回での参加者数の度数分布では「31～40人」が5件、「11～20人」、「51～60人」がそれぞれ4件ずつであり、明らかな偏りは見いだせなかった。</p>
35. 母親が認識している小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の疾患に関連した否定的な体験	共	2018年03月	日本看護研究学会 第31回 近畿・北陸地方会学術集会（兵庫県西宮市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、前田由紀、藤原千恵子 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親が認識している児の学校での疾患に関連した否定的な体験を明らかにすることを目的に、学童期の口唇裂・口蓋裂児の母親に半構造化面接調査を行い、内容分析法にて分析した。分析対象は小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親13名とした。その結果、母親は口唇裂・口蓋裂児の否定的な体験として【容姿や行動の違いへの指摘に自分で対応できた】【容姿の違いへの指摘や病気の暴露に苦痛を感じていた】と認識していた。</p>
36. 救急車要請の判断に影響を与える親の不確かさ尺度の基準	共	2018年03月	日本看護研究学会 第31回 近畿・北陸地方会学術集会（兵庫県西宮市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 親の不確かさが小児の不要不急な救急車要請の判断に影響を与える要因であることを不確かさ尺度（PUCAS）を用いて明らかにした。</p>
37. 急性疾患をもつ小児の親の不確かさ尺度の構成概念妥当性および関連要因の検討	共	2017年12月	第37回日本看護科学学会学術集会（岩手県仙台市）	<p>本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子、大橋一友 不確かさ尺度（PUCAS）の構成概念妥当性および関連要因を検討するため、急性期疾患を持つ小児の外来受診後、親に不確かさ尺度（PUCAS）を含む質問紙を渡した。171名を共分散構造分析した結果、尺度として成立することが明らかとなった。</p>
38. 口唇裂・口蓋裂児の小学校入学に伴う母	共	2017年12月	第37回日本看護科学学会学術集会（岩手県仙台市）	<p>本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子、大橋一友 口唇裂・口蓋裂児の小学校入学に伴う母親の不安を明らかにすることを目的に、学童期の口唇裂・口蓋裂児の母親15名を対象に、半構</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
親の不安			手県仙台市)	造化面接調査を行い、内容分析法にて分析した。母親は子どもの小学校入学に伴い、【他の子どもからの姿の違いへの指摘】【姿の違いや指摘に対する子ども自身の葛藤】【外傷による創の離開】【伝わりにくい言語】【保護者への正確な病気説明】という不安を抱えていたことが明らかになった。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、熊谷由加里、池美保、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子
39. 小児科外来の看護師が行っている診療や看護をスムーズにさせるための情報収集と情報共有の方法	共	2017年09月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	小児科外来の診療場面において、診療や看護をスムーズにさせるための看護師の技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。27コード、8サブカテゴリー、2カテゴリー【情報の把握】【看護師間の情報共有】に類型化された。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、藤原千恵子、竹島泰弘
40. 採血場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術	共	2017年9月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	小児科外来の採血場面において診療や看護をスムーズにさせるために看護師が行っている判断や技術を明らかにするため、看護師5名の参加観察およびインタビューを行った。25コード、7サブカテゴリー、2カテゴリー【確実な採血の実施】、【安心・安全な採血の実施】に類型化された。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子、竹島泰弘
41. 診療場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術	共	2017年09月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	小児科外来の診療場面において、診療や看護をスムーズにさせるための看護師の技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。28コード、5サブカテゴリー、2カテゴリー【医師との協働】【スピーディーな行動】に類型化された。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：吉田陽子、藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子、竹島泰弘
42. 小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因	共	2017年09月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因について明らかにするため、小児科外来に勤務する看護師を対象に自記式の質問紙調査を行った。看護師が認識する保護者の満足度の平均は100点中57.8点であった。満足度と有意な相関があった要因は、診察までの待ち時間、医師と看護師間の人間関係、看護師間の人間関係、複数の検査がある場合は結果ができるまでの時間が長い検査から実施する、処置検査時のプレパレーションの実施などであった。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
43. What to Do Until the Ambulance Arrives: Nursing Practices at Pediatric Outpatient Departments in Japan	共	2017年08月	2 nd APNRC (台北)	小児科外来で救急車が到着するまでに看護師が実施していることを明らかにするために質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは27件あった。カテゴリーは「医療機器の準備」「患者の情報収集」「患者の事前受け付けをする」「医療者を呼んでおく」「実施マニュアルの掲示」などがみられた。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子
44. 口蓋裂児に病気のことと話を時期や内容に関する父親と母親の認識	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会学術集会（東京）	口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親と父親を対象に、子どもに病気のことを話す時期や内容について、専門外来受診時に質問紙調査を行った。話している時期は3歳であった。話している内容については多岐に渡っていた。 本人該当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
45. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の育児に対する認識	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会 学術集会（東京）	共著者名：植木慎悟、熊谷由加里、 <u>北尾美香</u> 、松中枝理子、池美保、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ父親を対象に、育児に対する認識を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた父親80名を分析した。「子どもの育ちへの期待」「子どもに対する感情」「疾患に対する感情」「家族としての視点」「育児に対する親としての姿勢」がみられた。 本人該当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：松中枝理子、 <u>北尾美香</u> 、熊谷由香里、池 美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子
46. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の育児に対する認識	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会 学術集会（東京）	口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親を対象に、育児に対する認識を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親149名を分析した。「子どもの育ちへの期待」「子どもに対する感情」「疾患に対する感情」「家族に対する視点」「育児に対する親としての姿勢」がみられた。 本人該当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤原千恵子、熊谷由香里、 <u>北尾美香</u> 、松中枝理子、池 美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一
47. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親が認識する「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会 学術集会（東京）	口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ父親を対象に、闘病過程で「自身や子ども、家族にとって支えになったことを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親80名を分析した。「医療者・病院のスタッフ」「医療」「家族」「同じ疾患の子どもを持つ親」「友人・知人」の対応や存在、「自分の考え方・経験」「経済面」が支えになっていた。 本人該当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名： <u>北尾美香</u> 、熊谷由香里、松中枝理子、池 美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子
48. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親が認識する「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会 学術集会（東京）	口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親を対象に、闘病過程で「自身や子ども、家族にとって支えになったことを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親149名を分析した。「医療」「医療者」「家族」「自分自身」「友人・知人」「体験者間」の対応や存在が支えになっていた。 本人該当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由香里、 <u>北尾美香</u> 、松中枝理子、池 美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子
49. The Current Status of Pediatric Outpatient Departments in General Hospitals in Japan	共	2017年03月	20 th EAFONS（香港）	日本の総合病院における小児科外来の現状を明らかにするために300施設の小児科外来に調査を実施した。1日あたりの小児外来患者の平均数は62.6人であり、平均待ち時間は36分であった。約76%がワクチンの投与と疾患の治療のために別々の時間帯を設けており、そのような施設では、待ち時間が有意に短かった。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由香里、 <u>北尾美香</u> 、松中枝理子、池 美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子
50. A Study on Pediatric Outpatient Nursing Techniques for Performing Medical Examinations Effectively and Smoothly.	共	2017年03月	20 th EAFONS（香港）	小児科外来の看護師が医師の診察中にスムーズにさせるために実施している技術を明らかにするために、質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは20件あった。カテゴリーとして「診察の準備」「患者間違いの防止」「子どもに安心感を与える配慮」「診察の介助」などがみられた。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名： <u>北尾美香</u> 、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
51. Challenges for Pediatric Outpatient Nurses	共	2017年03月	20 th EAFONS（香港）	小児科外来の看護師が困難を感じていることを明らかにするために、質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは88件あった。カテゴリーとして「多忙な業務」「高度な専門性」「設備の使いにくさ」「理解不足の親への対応」などがみられた。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子
52. 母親の口唇裂・口蓋裂をもつ子どもに関する認識と医療者への期待と実際－裂型別での比較－	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会（東京）	母親の口唇口蓋裂児に関する認識について児の裂型別で比較し、差異を明らかにするため、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。裂型別で比較した児に関する認識は17項目中4項目において裂型別に有意差がみられた。裂型に直結した機能上の問題が関連していることが考えられる。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：新家一輝、藤田優一、植木慎悟、北尾美香、松中枝理子、藤原千恵子
53. 夫婦間における口唇裂・口蓋裂児に関する認識と育児レジリエンスの比較	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会（東京）	口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの両親である夫婦間において、口唇裂・口蓋裂に関する認識やレジリエンスの程度に違いがあるかを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、両親64組を分析した。CLPに関する認識では、将来への心配に関する2項目、および自らを責める2項目において母親の得点が有意に高かった。育児レジリエンス尺度の「問題解決力」と「受け止め力」において父親の得点が有意に高かった。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、新家一輝、藤田優一、北尾美香、松中枝理子、藤原千恵子
54. 母親の口唇口蓋裂児に関する認識：発達段階別での比較	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会（東京）	母親の口唇口蓋裂児に関する認識について児の発達段階別で比較し、差異を明らかにするため、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。発達段階別で比較した児に関する認識は17項目中7項目において発達別に有意差がみられた。児の発達に伴って不安や悩みが軽減する項目がある一方で、発達に伴って将来への心配が強くなる項目もみられた。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、新家一輝、松中枝理子、北尾美香、藤原千恵子
55. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の医療者への期待と実際に受けた支援	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション（三重県津市）	口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、父親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援とともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3位に上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：松中枝理子、北尾美香、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子
56. 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスマーズにさせるための技術・工夫	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション（三重県津市）	小児科外来の看護師が、処置・検査中に実施している診療や看護をスマーズにさせるための技術・工夫について明らかにするために小児科外来に勤務する看護師を対象に調査を行った。63名より回答があり、記録単位は計105件、コード数は45件であった。カテゴリーとして「デストラクションの実施」「プレゼンテーションの実施」「処置検査時は保護者同伴で実施」などが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
57. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション（三重県津市）	<p>口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援とともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。</p> <p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>北尾 美香</u>、松中 枝理子、池 美保、熊谷 由加里、植木 憲悟、新家 一輝、藤田 優一、石井 京子、藤原 千恵子 地域の小児科クリニックにおいて、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、熱性けいれん時の対処行動の特徴を分析した。</p>
58. 热性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動	共	2011年08月	第21回日本外来小児科学年次集会（兵庫県神戸市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>北尾美香</u>、藤原千恵子 地域の小児科クリニックにおいて、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、熱性けいれん時の心理状態の特徴を分析した。</p>
59. 热性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の心理的状況	共	2011年08月	第21回日本外来小児科学年次集会（兵庫県神戸市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>北尾美香</u>、藤原千恵子 地域の小児科クリニックにおいて、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、熱性けいれん時の心理状態の特徴を分析した。</p>
60. 看護職者のキャリア形成に関する認識	共	2010年08月	第36回日本看護研究学会学術集会（岡山県岡山市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：上田恵子、高城美圭、常松恵子、高城智圭、<u>北尾美香</u>、河上智香、新田紀枝、藤原千恵子、石井京子 臨床現場で働く看護職者を対象とした自由記述調査によって、看護職者がキャリア形成をどのようにとらえているかの認識を分析した。</p>
61. 看護職による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性と実施の相互関係	共	2010年07月	第41回日本看護学会看護総合（山口県山口市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：常松恵子、<u>北尾美香</u>、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子 3年以上の経験を持つ看護師を対象とした質問紙調査によって、看護師のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性と実施の相互関係を分析した。</p>
62. 看護職のキャリア発達による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性の認知	共	2010年07月	第41回日本看護学会看護総合（山口県山口市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>北尾美香</u>、常松恵子、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子 3年以上の経験を持つ看護師を対象とした質問紙調査によって、看護師のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性に違いがあるかを分析した。</p>
63. 看護職による患者家族レジリエンス支援－患者家族レジリエンス支援の構造－	共	2009年09月	日本家族看護学会第17回学術集会（岐阜県高山市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：<u>北尾美香</u>、常松恵子、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子 3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族へのレジリエンスを引き出す援助の構造を明らかにした。</p>
64. 看護職による患者家族レジリエンス支援－看護経験年数および職務キャリアによる実施の差異－	共	2009年09月	日本家族看護学会第16回学術集会（岐阜県高山市）	<p>本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：河上智香、高城智圭、新田紀枝、高城美圭、常松恵子、<u>北尾美香</u>、上田恵子、石井京子、藤原千恵子 3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、看護職者の経験年数やキャリア得点に寄って患者家族に対するレジリエンス支援の実施に違いがあるかを分析した。</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
65. 看護職者による患者家族レジリエンス支援－患者家族レジリエンス支援に影響する要因－	共	2009年09月	日本家族看護学会 第16回学術集会(岐阜県高山市)	北尾美香、上田恵子、石井京子、藤原千恵子 3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族に対するレジリエンス支援の必要性に影響する要因を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：新田紀枝、河上智香、高城智圭、高城美圭、常松恵子、 北尾美香、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
66. 小児看護学実習が育児体験ストレスに与える影響の主観的・客観的判定	共	2007年09月	第38回日本看護学会小児看護(茨城県つくば市)	小児看護実習を終了した学生と未終了の学生を対象に、啼泣乳児モデルから受けけるストレスの程度を生理学指標を用いて比較し、実習の影響を分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、河上智香、石井京子、藤原千恵子
3. 総説				
1. 【小児看護の”いま”と出逢う～多様な知識と研究・活動～】若手研究者の研究 口唇裂・口蓋裂をもつこどもと家族へのケア	単	2024年7月	小児看護、47巻7号、Page835-839	
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 子どもの最善の利益と付き添う親の負担軽減を目指した入院環境支援プログラムの開発	共	2025年4月	科学研究補助金 「基盤研究C」助成金	
2. 発達障害傾向のある幼児を対象とした予防接種のプレパレーション・アルゴリズムの開発	単	2023年4月	科学研究費補助金 「若手研究」助成金：2,000千円	発達障害傾向のある子どもは、感覚過敏や多動性・衝動性といった特性から、医療機関への受診や予防接種に困難をきたす状況がある。本研究では、2段階の研究を通して、小児科外来の看護師が暗黙的に実践している「発達障害傾向のある幼児へ安全安楽に予防接種を行うための知識・技術」を、知識変換の過程であるSECIモデルを用いて形式知へ変換し、小児科外来の看護師よりコンセンサスの得られた「発達障害傾向のある幼児へ安全安楽に予防接種を行うための知識・技術」を明らかにする。これらの研究結果をもとに、『発達障害傾向のある幼児を対象とした予防接種のプレパレーション・アルゴリズム』を開発する。
3. 口唇口蓋裂のある学童期患児と家族に対するセルフケアの自立に向けた看護師の援助内容	単	2022年7月	武庫川女子大学 「令和4年度ダイバーシティ推進センター女性研究者賞」 文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)女性研究者賞」	本研究は、口唇口蓋裂(以下、CLPとする)の専門的治療を行っている施設での経験豊かな看護師の、CLPのある学童期患児と家族に対するセルフケアの自立に向けた看護師の援助内容を明らかにする。
4. 感染対策と子どもの権利擁護、親の負担軽減の両立を目指した入院ガイドラインの開発	共	2022年4月	科学研究補助金 「基盤研究C」助成金：2,800千円	新型コロナウイルス感染症の拡大によって、小児病棟では親の付き添いの制限、面会禁止など子どもの権利が養護されていない状況がある。また、親が付き添う際には、睡眠がとれない、食事がとれないなど親の負担は大きい。本研究では3段階の研究を通して、看護師長よりコンセンサスの得られた「子どもの権利擁護や親の負担軽減

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
5. 口唇口蓋裂児が就学時に直面する心理的苦痛緩和のための家庭と学校間の協力支援の検討	単	2016年10月	科学研究費補助金 「研究活動スタート支援」 助成金：2,340千円	と両立できる感染予防策」および、親が賛同する「子どもの権利擁護や親の負担軽減と両立できる感染予防策」を明らかにする。これらの研究結果をもとに『感染対策と子どもの権利擁護、親の負担軽減の両立を目指した入院ガイドライン』を開発する。 研究代表者：藤田優一 研究分担者：北尾美香、福井美苗、小笠原史士、植木慎悟 学童期の口唇裂・口蓋裂の子どもをもつ母親を対象に面接調査を実施し、就学に伴う不安や就学後の心理的苦痛について明らかにした。また、教員を対象に質問紙調査を実施し、教員の口唇裂・口蓋裂についての認識や学童期の口唇裂・口蓋裂の子どもに対する学校の対応について明らかにした。
6. 小児科外来における看護実践の暗黙知の解明とSECIモデルを活用した学習方法の検証	共	2016年04月	科学研究費補助金 「基盤研究C」 助成金：4,550千円	小児科外来の看護師が暗黙的に実践している「診療や看護をスムーズにさせるための知識・技術」を、知識変換の過程であるSECIモデルを用いて形式知へ変換し、学習用の動画とパンフレットを作成して外来看護師へ講習を行い、その効果を検証する。 研究代表者：藤田優一 研究分担者：藤原千恵子、植木慎悟、北尾美香
7. 口唇口蓋裂児の親のレジリエンスの解明と育児困難への前向き育児プログラムによる介入	共	2014年04月	科学研究費補助金 「基盤研究C」 助成金：4,680千円	口唇口蓋裂をもつ子どもの親を対象に、育児レジリエンスと困難感に関する質問紙調査を実施した。育児に悩みを抱える親に対してトリプルP講習会を開催し、その有効性を検証した。 研究代表者：藤原千恵子 研究分担者：藤田優一、高島遊子、新家一輝、植木慎悟、北尾美香

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1. 2018年02月09日～現在	まちの保健室